

沿革

(会報 No.1 より抜粋)

I 日本監査研究会設立への動き

1. その母体

昭和20年代は、監査制度の確立・充実の必要性がやかましくいわれながら、大学に監査論講座を設置しているところもほとんどなく、監査研究に真剣にとりくもうとする人も少なかった。久保田音二郎教授を中心に、近澤弘治、桜井弘蔵、山樹忠恕の各教授が相集まり、神戸大学の久保田研究室で4人の監査研究会を始められたのは、昭和30年の初夏のことであったときく。知っている人々のなかでの「恥かき会」をやろうという趣旨で出発されただけに、特定のテーマもなく、月1回問題点をもちよって雑談をされるという状況であった。その年の秋、高田(正)、翌々年可児島俊雄、森実の各氏が参加し、例会も報告者とテーマを決めて組織的に行うようになっていった。この研究会は、徐々に拡大し、現在の関西監査研究会へと発展した。日本監査研究学会の母体は、このような成長をしてきた関西監査研究会であるといってよからう。

2. 学会設立の契機

同研究会では、昭和50年夏頃からこの研究会を母体として全国的な規模で監査学会を設立しようという意見が出、翌51年夏期合宿でこの案が本決りとなった。そして高田(正)が中心となってその設立の事務を進めることになった。準備委員として、高田のほか大矢知浩司、可児島俊雄、河合秀敏、高柳龍芳(アイウエオ順、以下同様)の各氏、補佐として大石勝也、加藤恭彦、津田秀雄の各氏が指名され、設立原案作成に協力された。また同研究会の例会に際しては会員全員からご意見をいただいた。その後設立に至るまで、関東側の飯野利夫、(故)岩村一夫、檜田信男、山樹忠恕の各教授の積極的なご協力をえ、また青木茂男、黒沢清、田島四郎の各教授のご理解とご支援をたまわった。

3. 学会設立の状況

関西側では、当初しばらくは、会員の範囲、事業内容などが話題の中心となつた。議論するうちに、想定する会員の範囲が拡大され、公認会計士界、法曹界、官界、産業界を包摂して会員1万人以上を擁する大会を夢みるに至つた。また事業内容も監査の全領域を統轄する権威ある団体を志向するにふさわしいものになっていった。昭和51年秋頃から、多くの個人、団体に接触するうちに、すでに確立され歴史の長い監査実務に関する団体が多いこと、これに対して学究による監査研究の全国組織が現存しないこと、事務上の制約があることが明確となり、これらを根拠として、一転してとりあえず純学究的な監査論研究者による集まりとすることに落着いた。

昭和51年12月18日関西側においてこのための会合をもち、上の問題のほか、発起人、会員の限定とその選定基準、財政問題なども討議され、翌52年4月23日、同6月4日の会合において、これらを含む具体的な案が出され、一応の結論に到達した。また同6月7日には、東京、如水会館において会合をもち、飯野利夫、岩村一夫、可児島俊雄、久保田音二郎、檜田信男の各教授に高田（正）が出席し、長時間にわたる討議のすえ会の原型が明らかにされた。この会合に対し、山耕忠恕教授からも文書でご意見がよせられた。このときの討議の結論はつきのようなものであった。

- 1) 発会の趣意として、上記の範囲縮小を確認し、地味な研究推進の団体とすること。
- 2) 会の名称を「日本監査研究学会」とすること。
- 3) 入会条件を厳格にし、原則として大学教育機関における監査研究者であって、ある程度の業績があること。（会員の選定基準については、なお討議する必要のあることを確認した。）
- 4) 会則は日本会計研究学会をモデルとするが、理事会を運営の中心とし、そこから選ばれた会長が理事の代表として全体を総括すること。
- 5) とくに外部から資金を集めず、発起人から一人当たり8万円程度を借り入れ、毎年度徴収の会費から余裕がでたときに返済すること。

6) 創立総会を本年度中に行うこと目標とすること。

その後、日本会計研究学会との調整を行うため青木茂男教授にご苦労をいただきたりしたこともあるが、ようやく昭和53年3月から第1回大会準備を行い、会員候補者81名を選んでこの方々に入会を勧誘し、昭和53年5月20日の創立総会・第1回研究大会を開催する運びとなった。

4. 設立趣意書と発起人

上記の経緯に基づき作成された設立趣意書は次の通りである。会員候補者に発送するにあたり、発起人20名をお願いした。

[日本監査研究学会設立趣意書]

殿

昭和53年4月 日

謹啓 陽春の候、貴殿にはご清祥のこと大慶に存じます。

さて、このたびわれわれ有志協議の結果、「日本監査研究学会」を設立することとなりました。

監査の理論研究は、最近とみにその重要性を増しております。しかし、これにたいして、現在、監査を理論的に解明する研究者がその数において相対的に少ないだけでなく、これらの人びとが一堂に会して相互に交流を持つ機会もほとんどないのが実情であります。このことは、監査実務家の間で、多数の研究団体があり、その活動が活発であることに比べてとくに目立つ昨今であります。

このような監査研究者の現状にかんがみ、われわれは、日本会計研究学会のメンバーのなかから、教育研究機関に所属する監査論の研究者を選んで、そのかたがたに呼びかけ、監査論に関する独自の学会を発起することに致しました。これによって、当学会は、日本会計研究学会の活動を補足しつつ、社会一般

の監査重視の動向に応えて、会員の監査理論研究の向上に寄与し、また会員の相互交流関係を深め、理論研究の水準を高めたいと念願するものであります。

日頃、この方面の研究に専念されます貴殿におかれましては、同封別記の資料をご高覧のうえ、われわれの趣意にご賛同たまわり、当学会にご参加下さいますようお願い申し上げる次第でございます。

準備の都合上、入会に関する貴意と創立総会・第1回研究大会へのご参加の有無を、同封葉書にて来る昭和53年5月5日までに表記宛お寄せ下さいますようお願い申し上げます。

時節柄一層ご自愛のほどお祈り申し上げ、以上新学会設立に関するご挨拶ならびにお願いとさせていただきます。

敬　　具

日本監査研究学会設立発起人一同

日本監査研究学会設立発起人

(アイウエオ順)

青木茂男	黒沢清
飯野利夫	桜井弘蔵
岩村一夫	高田駒次郎
江村稔	高田正淳
大野公義	高柳龍芳
大矢知浩司	高田四郎
可児島俊雄	島澤弘治
上村久雄	近澤田信男
河合秀敏	檜山忠実
久保田音二郎	森山忠恕

◆昭和 53 年 5 月 20 日 創立に関する諸会議 記念撮影 (神戸大学経営学部本館前庭にて)

